

## 第2章 高齢者等の現状

### 1 鳩山町の概要

#### (1) 概況

面積	25.71K m <sup>2</sup>
東経	139° 20
北緯	35° 59
海拔	140.3m (最高)
	23.5m (最低)
人口	13,506 人
高齢者人口	5,975 人
高齢化率	44.2%

資料:人口は住民基本台帳「外国人登録を含む」 令和2年10月1日現在

#### (2) 位置



本町は、埼玉県中央部・比企丘陵の南端に位置しており、県庁の所在するさいたま市から30 km圏内、また首都から50 km圏内にあります。

町域は、東西8.1km、南北5.5km、総面積は25.71 K m<sup>2</sup>でほぼ菱形をしています。

隣接する市町村は、北にときがわ町と嵐山町、西に越生町、南に坂戸市と毛呂山町、東に東松山市の2市4町となっています。

### (3) 歴史と沿革

本町は奈良時代に須恵器や瓦などの窯業の一大産地として栄え、鎌倉時代以降も街道沿いの宿場町や、材木の中継地として長く豊かな歴史を築いてきました。

明治22年の町村制施行により、この地に「亀井村」と「今宿村」が誕生しました。そして、昭和30年には両村が合併し、「鳩山村」となりました。

昭和49年には鳩山ニュータウンの入居が開始されたことにより、純農村地帯であった鳩山村に大きな転換期が訪れ、急激に人口が増加していきます。

こうしたことから、昭和57年4月に町制を施行し、現在の「鳩山町」が誕生することになります。その後、鳩山ニュータウンに入居した世代の子どもたちが成長し、町外へ転出していく人が増加したことにより、平成8年をピークに人口は減少していくこととなります。

#### ●年表

奈良時代	窯業の一大産地として栄える
鎌倉時代	鎌倉街道が整備される
正平7年(1352年)	笛吹峠の「武蔵野合戦」
明治22年(1889年)	町村制施行により亀井村、今宿村の2村が誕生
昭和30年(1955年)	亀井村、今宿村合併により、鳩山村が誕生
昭和49年(1974年)	鳩山ニュータウン入居開始
昭和55年8月(1980年)	村役場新庁舎完成
昭和57年4月(1982年)	町制施行により、「鳩山町」となる

## 2 日常生活圏域の設定

### (1) 日常生活圏域の概要

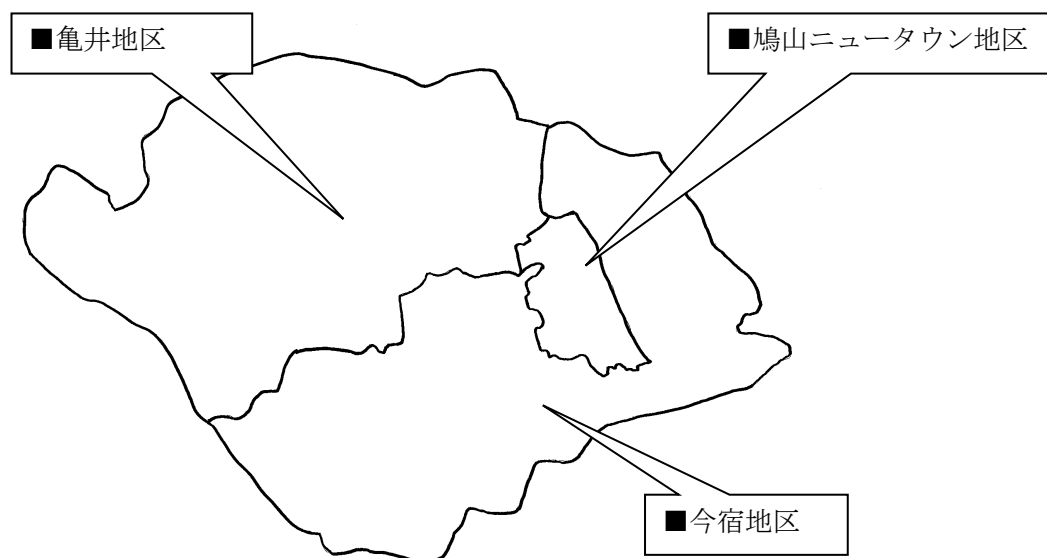
日常生活圏域の設定方法は、地理的条件や人口規模、交通事情、介護給付等対象サービス提供施設の整備状況など社会的条件を勘案して決定します。そして圏域ごとに、地域における総合相談の実施、介護予防の推進、包括的・継続的ケアマネジメントの支援を担う中核機関である「地域包括支援センター」を設置しています。

### (2) 日常生活圏域の現状

本町の日常生活圏域の設定は、高齢者が住み慣れた身近な地域で自立した生活を送ることができるよう、町全体を1つの日常生活圏域としています。

### (3) 日常生活圏域の見直し

第8期計画では、第7期計画と同様に町民にわかりやすい日常生活圏域を設定するために、既に行政区として住民に周知されている「亀井地区」、「今宿地区」、「鳩山ニュータウン地区」の3地区を比較分析します。



#### (4) 地区ごとの特徴（令和2年10月1日現在）

##### ●【亀井地区】

亀井地区の総人口は1,870人、高齢者人口は692人で、他の地区に比べて総人口及び高齢者人口は最も少なくなっています。高齢化率は鳩山ニュータウン地区に次いで2番目の37.0%となっています。

この地域には地域密着型サービス施設としてグループホーム、小規模多機能型居宅介護施設があるほか、高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅）も整備され、安否確認や生活相談等のサービスが行われています。

##### ●【今宿地区】

今宿地区は総人口4,643人、高齢者人口1,542人で、高齢化率は33.2%と他の地区に比べて最も低くなっています。

この地域には特別養護老人ホームなどの介護保険サービス事業所をはじめ、町役場、総合福祉センター、在宅介護支援センター、社会福祉協議会など地域コミュニティの核となる施設があり、高齢者福祉の中心的な役割を果たしています。

##### ●【鳩山ニュータウン地区】

鳩山ニュータウン地区の総人口は6,993人、高齢者人口3,741人で、高齢化率は53.5%と他の地区に比べて非常に高くなっています。また、単身高齢者世帯も他の地区と比較すると非常に多くなっています。

このように町内でも急速に高齢化が進んでいる鳩山ニュータウン地区に、地域包括ケアシステムの拠点施設として、地域包括支援センターや療養通所介護などが入る地域包括ケアセンターと特別養護老人ホームがあります。

また、コミュニティ活動を行うための大型の集会施設や役場出張所がそれぞれ1か所、介護予防施設等として「鳩ヶ丘のびのびプラザ」や「ニュータウンふくしプラザ」、「コミュニティ・マルシェ」、「多世代活動交流センター」などがあります。

## (5) 地区ごとの概況

## ●【面積、人口等】

	亀井地区	今宿地区	NT地区
面積(ha)	1,311	1,124	137
総人口(人)	1,870	4,643	6,993
高齢者人口(人)	692	1,542	3,741
高齢化率(%)	37.0	33.2	53.5
単身高齢者世帯数(世帯)	130	302	598
高齢者世帯数(世帯)	216	623	2,013

資料：面積はまちづくり推進課、人口は住民基本台帳「外国人登録を含む」令和2年10月1日現在、  
世帯数は避難行動要支援台帳システム【令和2年10月1日現在】

## ●【介護サービスの基盤整備状況】

(単位：か所)

	亀井地区	今宿地区	NT地区
総合福祉センター	0	1	0
介護予防施設	0	1	2
社会福祉協議会	0	1	0
居宅介護(予防)支援事業所	1	2	2
集会所、公民館等	9	9	1
特別養護老人ホーム	0	1	1
訪問介護	0	0	0
訪問看護	1	0	1
特定施設入居者生活介護	2	1	0
通所介護	0	4	1
短期入所生活介護	0	1	1
認知症対応型共同生活介護	1	1	0
小規模多機能型居宅介護施設	1	0	0
福祉用具	0	1	0
地域包括支援センター	0	0	1
在宅介護支援センター	0	1	0

資料：長寿福祉課 令和2年10月1日現在

## (6) 日常生活圏域設定の基本的な考え方

第8期計画では、第7期計画の日常生活圏域の設定を引き続き行い、「町全体を1つの圏域」とし、基盤整備を推進していきます。

今後、複数圏域の設定について、高齢者が暮らしやすい町づくりの観点から引き続き検討していくこととします。

### ●【理由】

- ①本町の人口規模、区域面積から想定すると、1つの日常生活圏域に1か所の地域包括支援センターを設置、運営することが財政面、利便性から判断し効率的・効果的であると考えられます。(国の想定基準においても、1つの日常生活圏域の人口は2～3万人を標準としています)
- ②複数の圏域を設定した場合には、圏域ごとに基盤整備を行うことになり、基盤整備にかかる費用が増大し保険料の高騰を招く恐れがあります。
- ③本町の行政区は、旧村部とその区域の一部の地域に集中して建てられた大型団地という形態となっています。仮にこの行政区で日常生活圏域を設定した場合、それぞれの圏域の面積と人口が大きくかけ離れており、基盤整備等の均衡が難しい状況です。

### 3 人口の推移

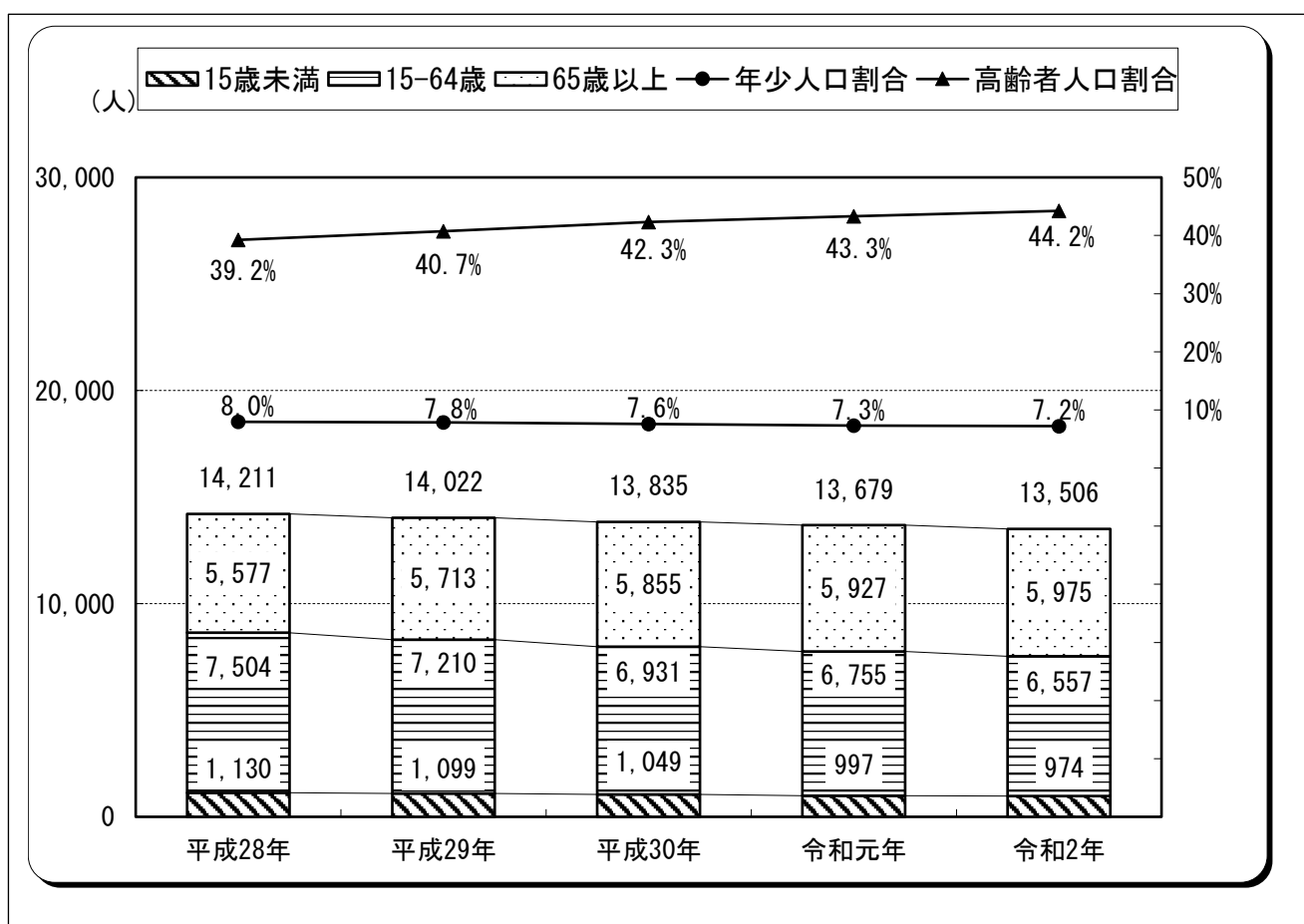
#### (1) 人口の推移

本町の人口の推移を住民基本台帳からみると、総人口は減少傾向となっており、令和2年10月1日現在では13,506人となっています。

また、年齢区分でみると、生産年齢人口（15歳～64歳）と年少人口（0歳～14歳）が減少し、高齢者人口（65歳以上）は増加の傾向が続いています。

さらに、総人口に対する高齢者人口割合（高齢化率）をみると上昇で推移しており、平成28年は39.2%でしたが、令和2年には44.2%と5ポイント上昇しています。平成25年（32.8%）から平成29年（40.7%）の高齢者人口割合（高齢化率）は、7.9ポイントの上昇であったのに対して、急激な高齢化の進行は緩和されました。

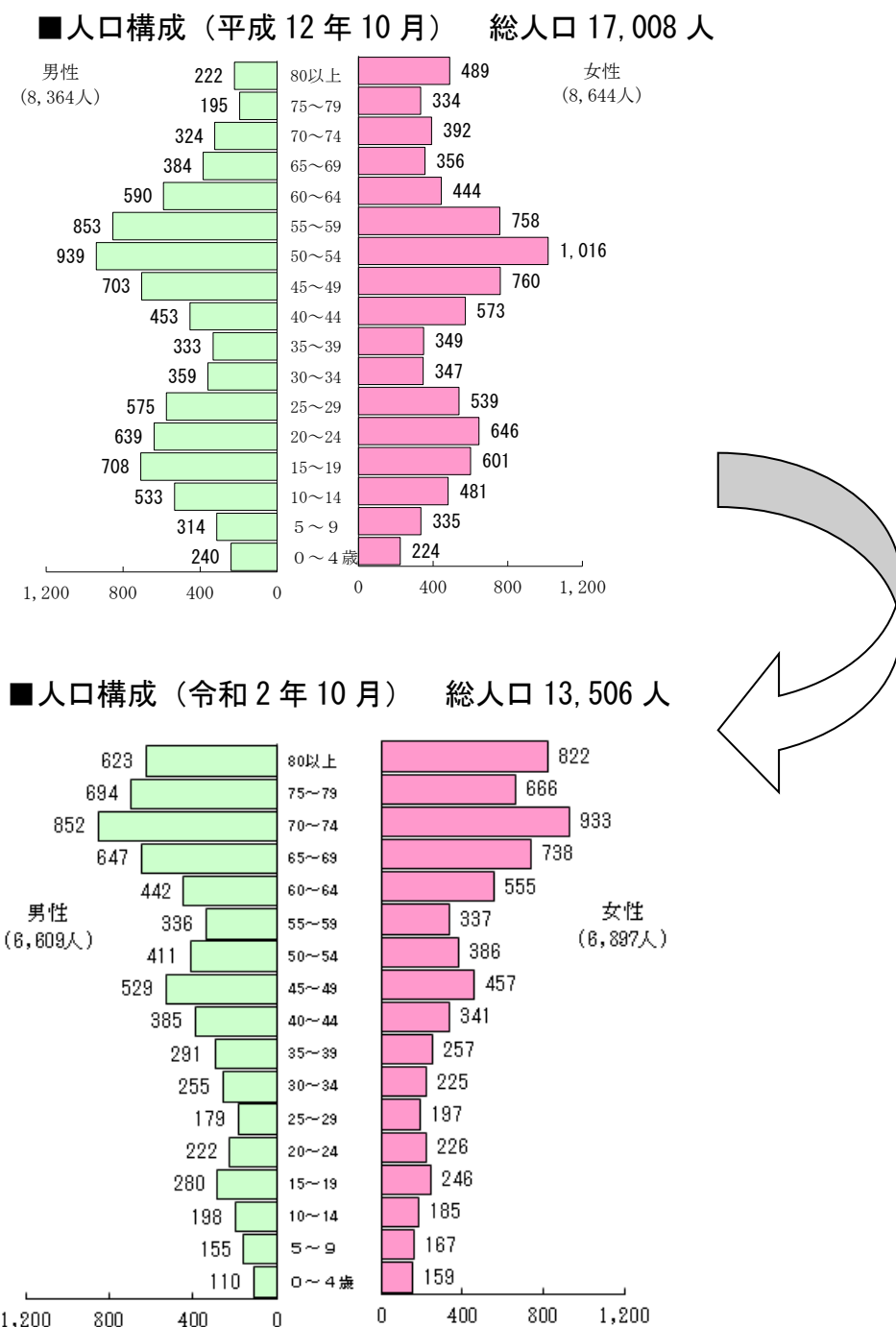
#### ■人口の推移



資料：住民基本台帳「外国人登録を含む」各年10月1日現在

(2) 人口構成

本町の人口構成を人口ピラミッドで見ると、平成12年では45歳～59歳までと15歳～29歳までを中心とした二つの膨らみをもつ「ひょうたん型」に近い形になっていましたが、令和2年10月ではその膨らみが上方へシフトし、現在は70歳～74歳の年齢層が多くなっています。また、平成12年に比べ、人口ピラミッドの上方の膨らみが大きくなり、下方の膨らみが小さくなっていることから、少子高齢化が進行し高齢者が増加していることが分かります。



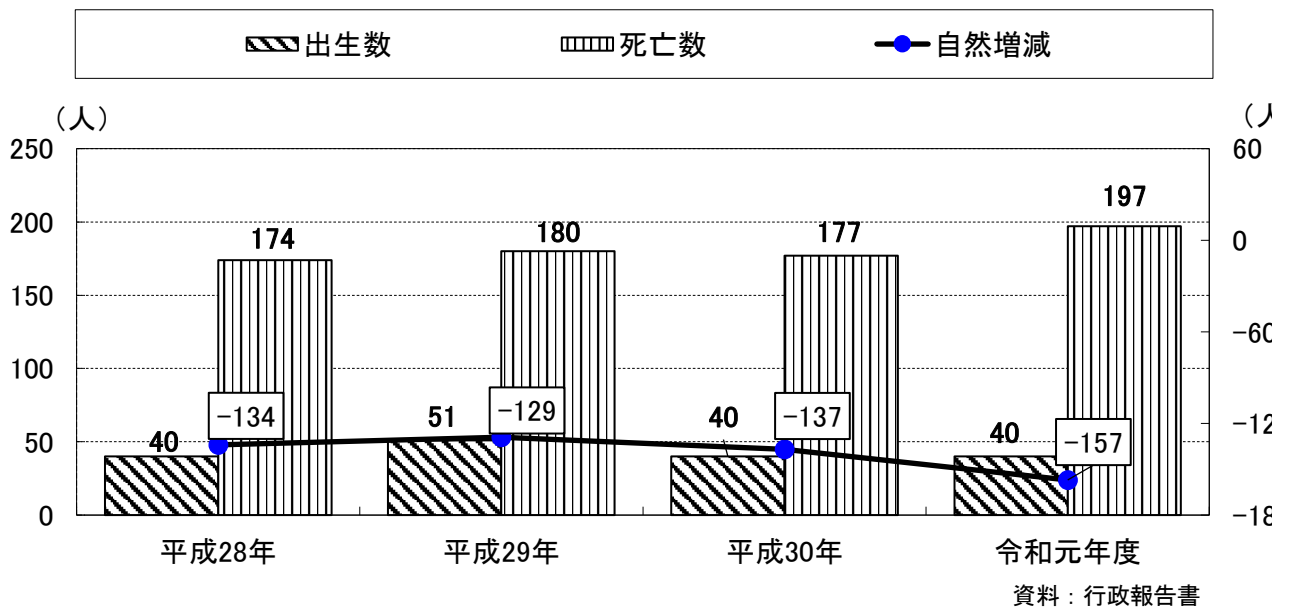


### (3) 人口動態

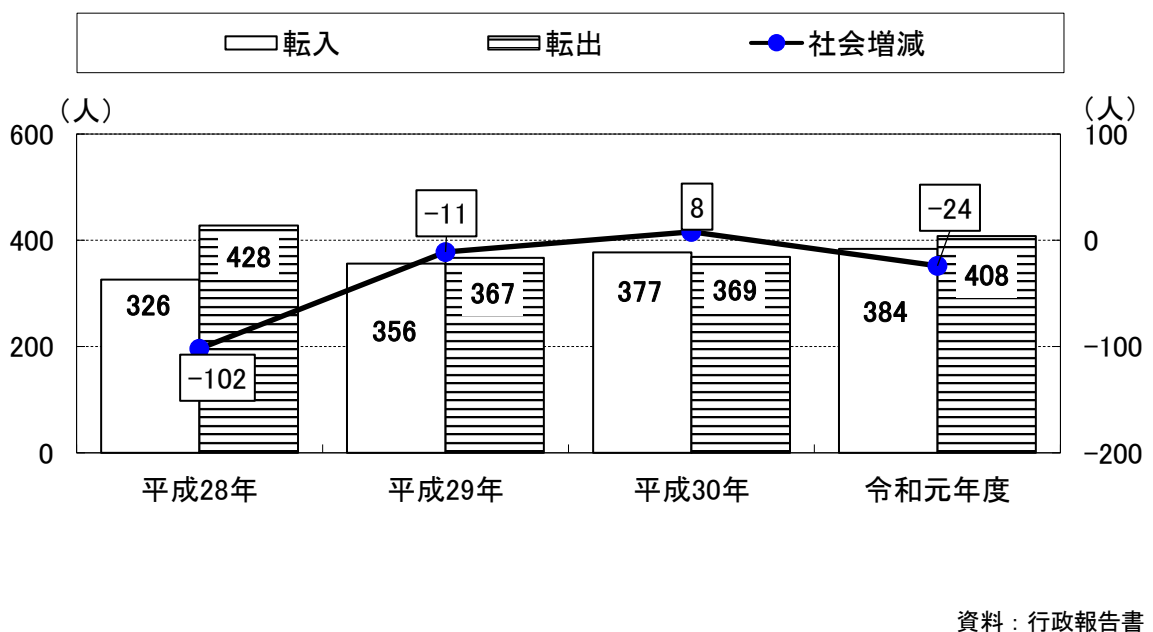
出生数と死亡数では、死亡数が出生数を上回って推移しており、その差である自然増減はマイナスとなっています。

また、転入と転出の動向でも、転出が転入を上回っていましたが、平成30年度は転入が転出を上回りました。その差である社会増減も、平成30年度以外はマイナスとなっています。

#### ■自然動態の推移



#### ■社会動態の推移



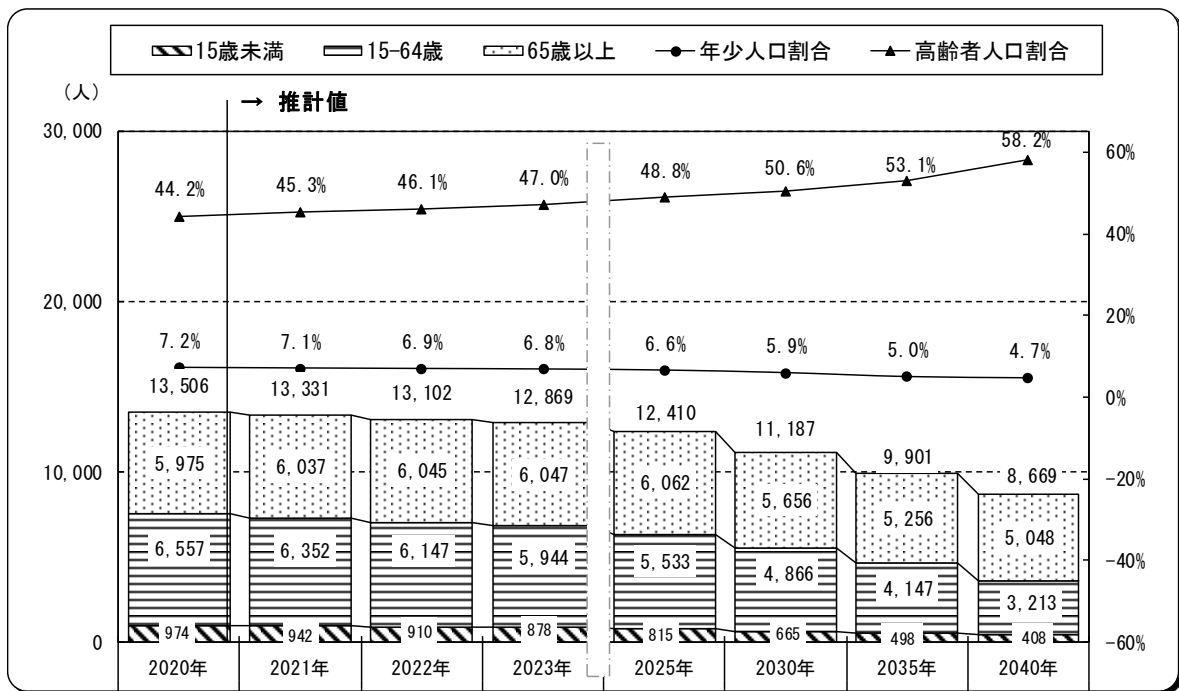
(4) 人口推計

令和3年度から令和22年度までの人口推計（見える化システム（国立社会保障・人口問題研究所のセンサス変化率法【コホート移行率法】による人口推計）をみると、総人口は減少傾向となり、第8期計画終了年度の令和5年は12,869人、団塊の世代が後期高齢者となる令和7(2025)年には12,410人、さらにはいわゆる団塊ジュニア世代が65歳以上となる令和22(2040)年には8,669人になると予測されます。

また、総人口に対する65歳以上の高齢者人口割合（高齢化率）は緩やかに増加する傾向で、令和5年には47.0%と推計され、令和2年と比較すると2.8ポイント上昇すると予測されます。

■人口の推計

区分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年
	2020年	2021年	2022年	2023年	2025年	2030年	2035年	2040年
15歳未満	974	942	910	878	815	665	498	408
15-64歳	6,557	6,352	6,147	5,944	5,533	4,866	4,147	3,213
65歳以上	5,975	6,037	6,045	6,047	6,062	5,656	5,256	5,048
年少人口割合	7.2%	7.1%	6.9%	6.8%	6.6%	5.9%	5.0%	4.7%
高齢者人口割合	44.2%	45.3%	46.1%	47.0%	48.8%	50.6%	53.1%	58.2%
合計	13,506	13,331	13,102	12,869	12,410	11,187	9,901	8,669



資料：見える化システム（国立社会保障・人口問題研究所のセンサス変化率法【コホート移行率法】による人口推計）

\* センサス変化率法：各コホートについて、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。

\* コホート：同じ年（または同じ期間）に生まれた人々の集団。

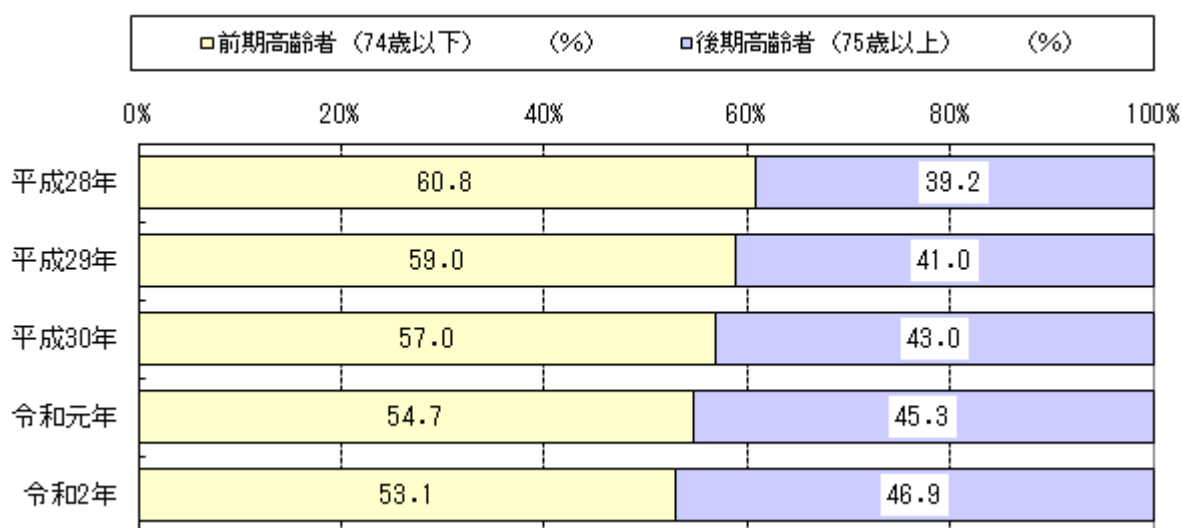
## 4 高齢者の状況

### (1) 高齢者人口に対する前期高齢者、後期高齢者の割合

65歳以上の高齢者を前期高齢者（65歳～74歳）と後期高齢者（75歳以上）に分けてその割合をみると、前期高齢者の割合が半数以上を占めていますが、今後は後期高齢者が増加していくことが予測されます。

後期高齢者は前期高齢者と比較して、医療や介護のニーズが急増することから、今後の高齢者の保健福祉ニーズを想定した施策を推進していくことが必要になります。

#### ■高齢者人口に対する前期高齢者、後期高齢者の割合



区 分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
前期高齢者(74歳以下) (人)	3,390	3,369	3,336	3,240	3,170
後期高齢者(75歳以上) (人)	2,187	2,344	2,519	2,687	2,805
老年人口(総数) (人)	5,577	5,713	5,855	5,927	5,975
総人口 (人)	14,211	14,022	13,835	13,679	13,506
高齢化率 (%)	39.24	40.74	42.32	43.33	44.24
前期高齢者(74歳以下) (%)	60.8	59.0	57.0	54.7	53.1
後期高齢者(75歳以上) (%)	39.2	41.0	43.0	45.3	46.9

資料：住民基本台帳「外国人登録を含む」 各年10月1日現在

(2) 年齢・世帯区分別世帯数

65歳以上の単身高齢者世帯数は1,030世帯で、全世帯に対する割合は17.1%と3.4ポイント上昇しました。すべての年代で増加していますが、ニュータウン地区の75歳以上の単身高齢者が、増加しています。今後、急速に後期高齢者(75歳以上)の単身世帯の増加が進むものと予測されます。

また、単身高齢者世帯の男女別の割合は、女性が各年齢別で多くなっており、中でも80歳以上は女性が男性の4倍となっています。

■年齢・世帯区分別世帯数(65歳以上高齢者世帯)

地区名	地区別世帯数	単身高齢者世帯数(R02, 10, 1 現在)					高齢者世帯数	地区別世帯数	単身高齢者世帯数(H29, 10, 1 現在)					高齢者世帯数
		65~74歳	75~79歳	80歳以上	計	割合			65~74歳	75~79歳	80歳以上	計	割合	
亀井地区	791	65	18	47	130	16.4%	216	767	45	9	55	109	14.2%	184
今宿地区	1,954	134	60	108	302	15.5%	623	1,943	110	46	83	239	12.3%	492
N T地区	3,283	216	142	240	598	18.2%	2,013	3,256	191	99	177	467	14.3%	1,786
合計	6,028	415	220	395	1,030	17.1%	2,852	5,966	346	154	315	815	13.7%	2,462

資料：世帯数は避難行動要支援台帳システム

■65歳以上の単身高齢者世帯数(男女別)

	地区別世帯数	令和2年10月1日現在									
		65~74歳		75~79歳		80歳以上		計		割合	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
亀井地区	791	35	30	8	10	11	36	54	76	6.8%	9.6%
今宿地区	1,954	68	66	25	35	26	82	119	183	6.1%	9.4%
N T地区	3,283	80	136	47	95	42	198	169	429	5.1%	13.1%
合計	6,028	183	232	80	140	79	316	342	688	5.7%	11.4%

	地区別世帯数	平成29年10月1日現在									
		65~74歳		75~79歳		80歳以上		計		割合	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
亀井地区	767	26	19	5	4	11	44	42	67	5.5%	8.7%
今宿地区	1,943	58	52	15	31	11	72	84	155	4.3%	8.0%
N T地区	3,256	80	111	28	71	33	144	141	326	4.3%	10.0%
合計	5,966	164	182	48	106	55	260	267	548	4.5%	9.2%

資料：世帯数は避難行動要支援台帳システム

### (3) 後期高齢者医療疾病分類別件数

本町の後期高齢者医療疾病分類別件数をみると、循環器系疾患（高血圧疾患、脳梗塞など）が最も多く、生活習慣病を起因とする疾患であることから、生活習慣の改善が課題となっています。

#### ■後期高齢者医療疾病分類別件数

順位	疾病名	平成30年 10月	令和元年 10月	令和2年 10月
1位	循環器系疾患 (高血圧疾患・脳梗塞など)	1,005	1,074	1,036
2位	歯の疾患 (歯肉炎、歯周疾患など)	479	490	468
3位	内分泌系の疾患 (糖尿病など)	369	386	371
4位	筋骨格系等の疾患 (脊髄障害、関節症など)	314	343	331
5位	眼の疾患 (近眼、老眼、白内障など)	250	241	256

資料：後期高齢者医療疾病分類別集計（順位は令和2年10月基準）

### (4) 主要死因別順位

本町の主要死因順位をみると、上位の4疾病は、悪性新生物、心疾患（高血圧性を除く）、肺炎、脳血管疾患となっており、後期高齢者になると肺炎が多くなっています。

#### ■平成26年～30年の死因順位

##### (1) 75歳以上

順位	死因	%
第1位	悪性新生物	26.3%
第2位	心疾患(高血圧性を除く)	19.5%
第3位	肺炎	13.1%
第4位	脳血管疾患	7.7%
第5位	老衰	6.2%
第6位	腎不全	3.2%
第7位	血管性及び詳細不明の認知症	2.7%
第8位	不慮の事故	2.3%
	その他	19.0%

##### (2) 40～74歳

順位	死因	%
第1位	悪性新生物	45.3%
第2位	心疾患(高血圧性を除く)	18.9%
第3位	脳血管疾患	7.0%
第4位	不慮の事故	5.8%
第5位	肺炎	4.5%
第6位	自殺	4.1%
第7位	肝疾患	2.5%
第8位	大動脈瘤及び解離	1.2%
	その他	10.7%

資料：人口動態統計

旧分類の「死因順位に用いる分類項目」による

## 5 アンケート調査結果に見る高齢者の現況

### ●アンケート調査概要

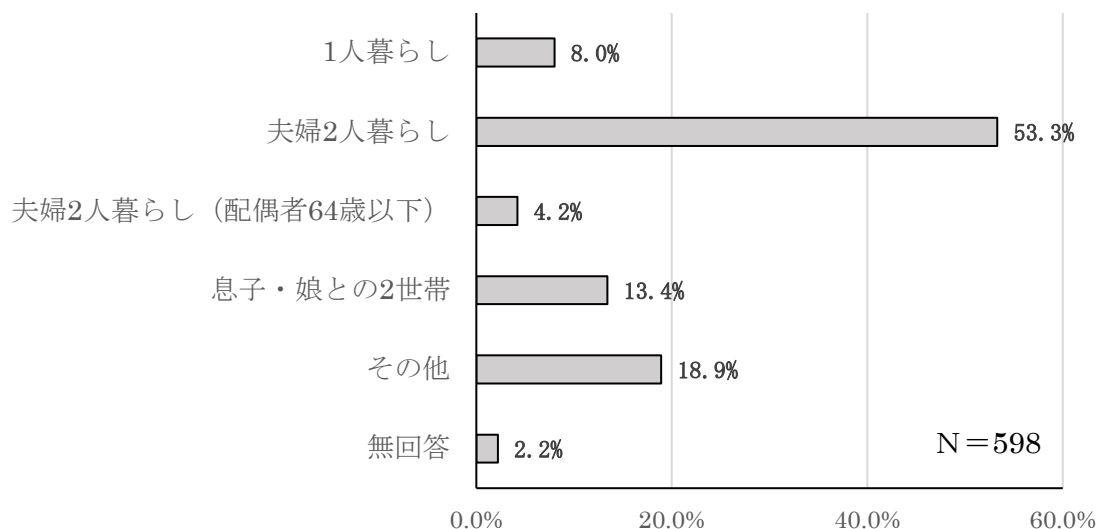
- ◎調査対象者：①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(65歳以上で要介護認定を受けていない方及び要支援者)  
 ②居宅要介護(要支援)者調査(要支援・要介護認定者・ただし施設入所者除く)  
 ③施設利用者調査(要支援・要介護認定者で施設入所または入院している方)
- ◎調査方法：郵送による配布、回収(郵送調査)
- ◎調査期間：令和元年12月10日(火)～12月27日(金)
- ◎回収状況

対象者	配布数	回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1,000件	598件	59.8%
居宅要介護(要支援)者調査	489件	226件	46.2%
施設利用者調査	224件	95件	42.4%

### (1) 家族構成(日常生活圏域ニーズ調査)

家族構成の続柄については、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(53.3%)が最も多く、「その他世帯」(18.9%)、「息子・娘との2世帯」(13.4%)と続いています。

#### ■家族構成



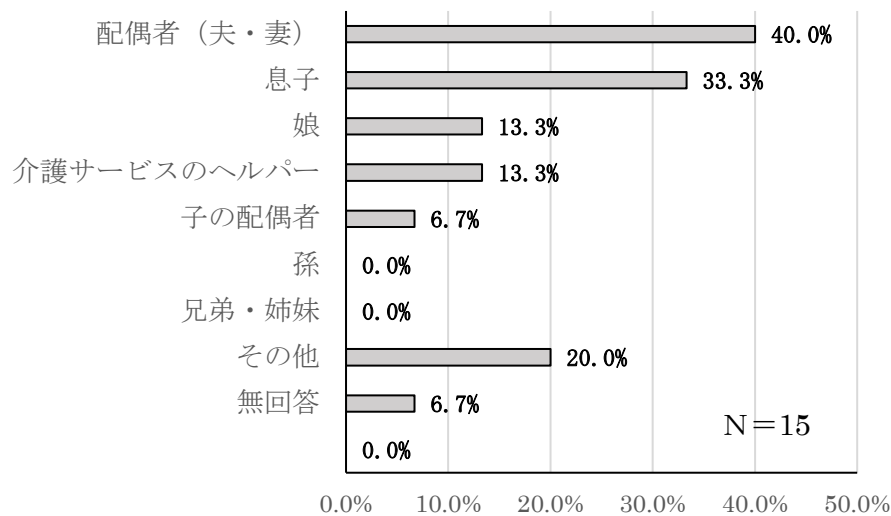
## (2) 主な介護・介助者

### ①日常生活圏域ニーズ調査

「現在、何らかの介護を受けている」と回答した15人に対し、主な介護者について聞いたところ、「配偶者」が40.0%で最も多く、次いで「息子」33.3%、「娘」、「介護サービスのヘルパー」とともに13.3%と続いています。

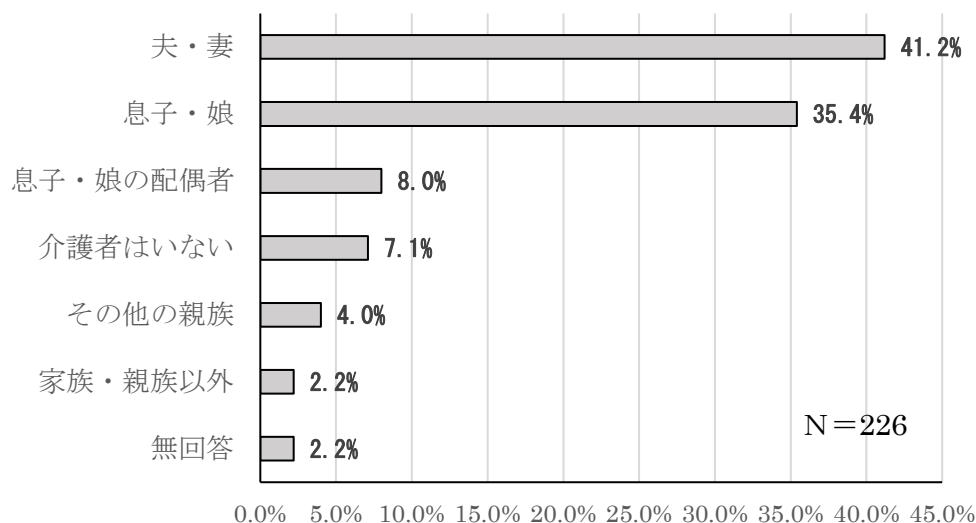
なお、「息子」と答えた人が、前回調査時の17.8%から15.7ポイント上がっています。

### ■介護・介助者について



### ②居宅要介護（要支援）者調査

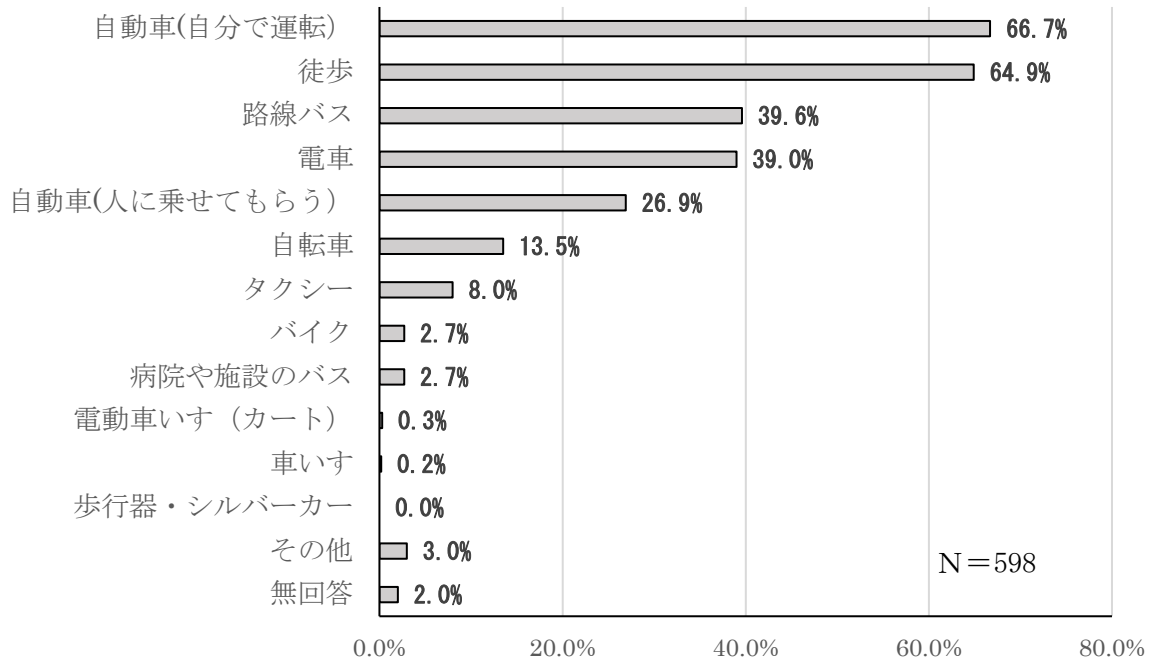
要支援・要介護認定者の方に対し、家族の中での主な介護者について聞いたところ、「夫・妻」が41.2%で最も多く、次いで「息子・娘」35.4%、「息子・娘の配偶者」8.0%と続いています。



(3) 外出する際の移動手段（日常生活圏域ニーズ調査）

外出する際の移動手段については、「自動車(自分で運転)」(66.7%)と「徒歩」(64.9%)が多く、やや差があり「路線バス」(39.6%)、「電車」(39.0%)、「自動車(人に乗せてもらう)」(26.9%)の順で続いています。

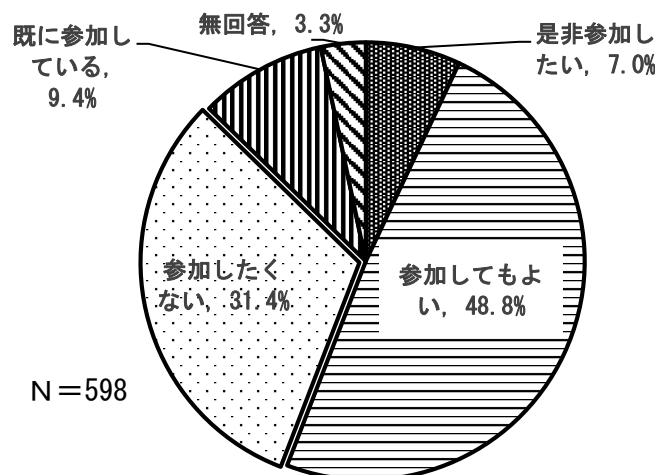
■外出する際の移動手段



(4) 地域づくりの活動への参加意思（日常生活圏域ニーズ調査）

地域づくりの活動への参加については、「参加してもよい」が48.8%で最も多く、「是非参加したい」(7.0%)と合計すると55.8%の方が参加意向を示しています。一方で「参加したくない」が31.4%と、3割程度が参加に否定的です。

■地域づくりの活動への参加意思

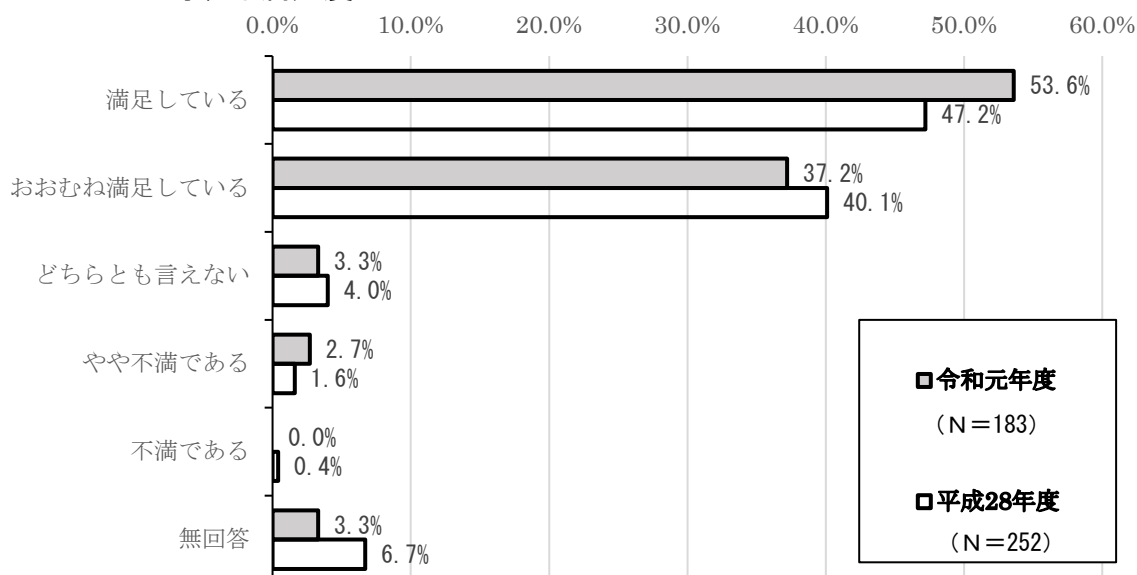




### (5) 利用している・利用したことのあるサービスに対する満足度（居宅要介護【要支援】者調査）

サービスに対する満足度では、「満足している」が53.6%と最も多く、前回調査より6.4ポイント上がっています。「おおむね満足している」(37.2%)と合計すると90.8%の方が『満足している』と回答しています。

#### ■サービスに対する満足度

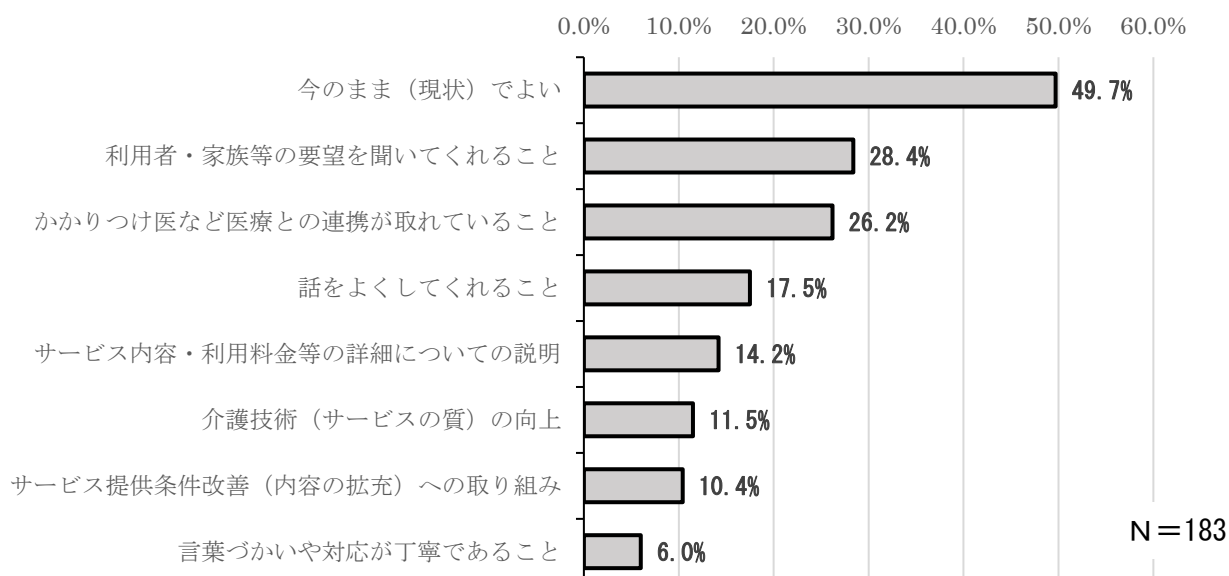


### (6) サービス事業者に求めること（居宅要介護【要支援】者調査）

サービス提供事業者に求めることについては、「今のままでよい」が49.7%で最も多くなっています。

要望としては、「利用者・家族等の要望を聞いてくれること」(28.4%)「かかりつけ医など医療との連携が取れていること」(26.2%)、が上位にあげられています。

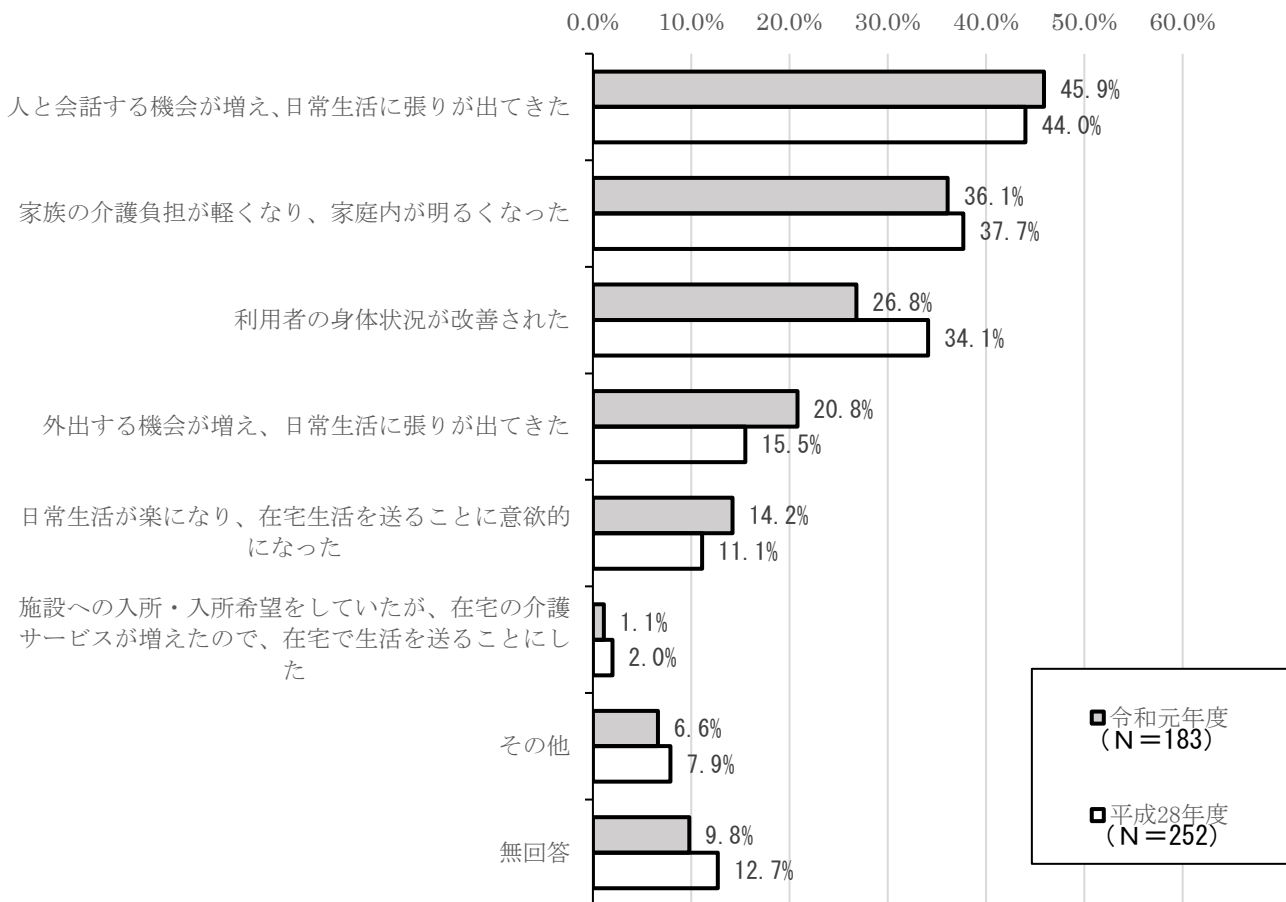
#### ■サービス提供事業者に求めること（複数回答）



(7) サービス利用による効果（居宅要介護【要支援】者調査）

サービス利用による効果や影響については、「人と会話する機会が増え、日常生活に張りが出てきた」が45.9%で最も多く、次いで「家族の介護負担が軽くなり、家庭内が明るくなった」(36.1%)、「利用者の身体状況が改善した」(26.8%)の順となっています。前回調査より「外出する機会が増え、日常生活に張りが出てきた」が、5.3ポイントと一番上がっています。

■ サービス利用による効果・影響（複数回答）

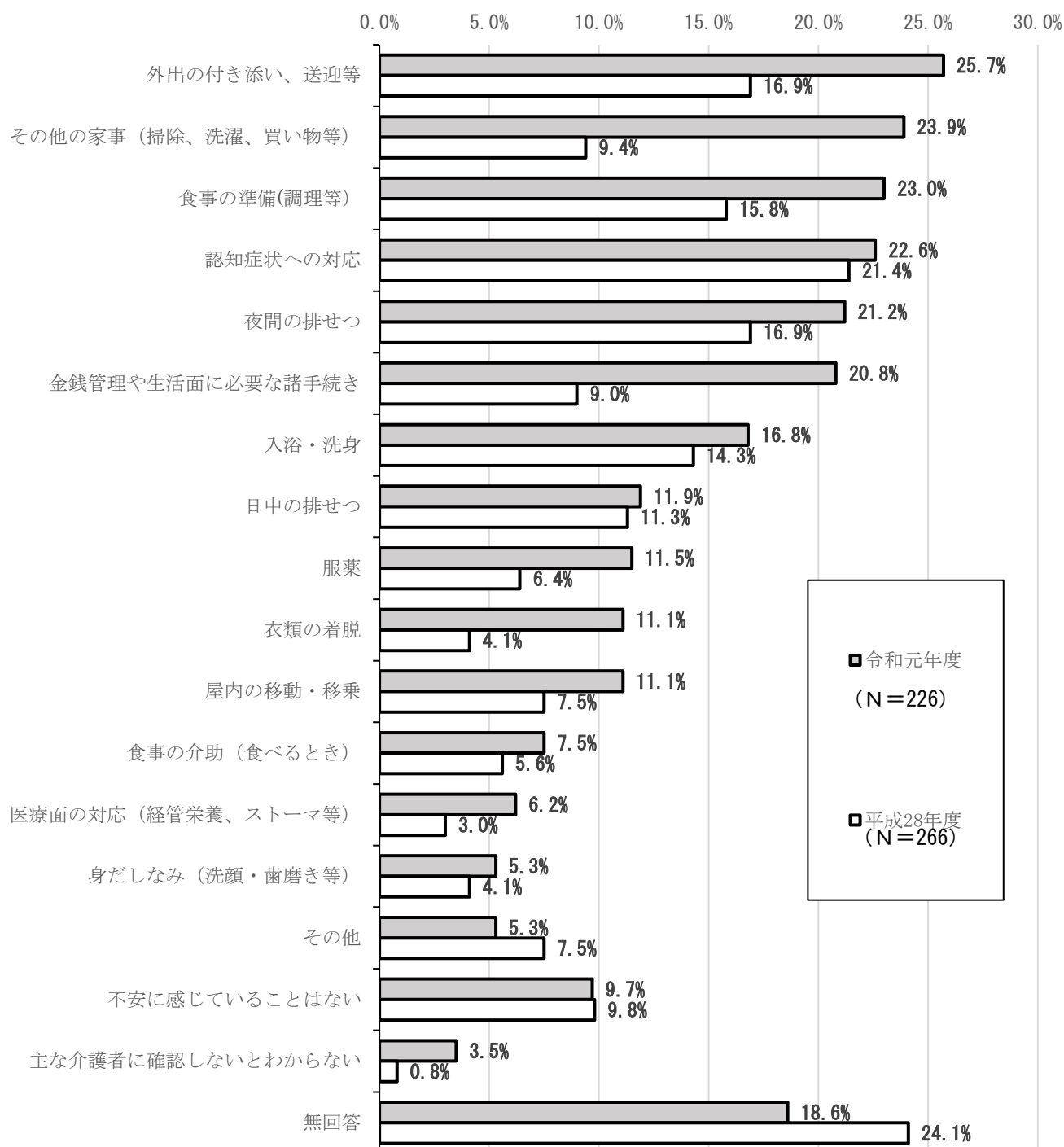


## (8) 現在の生活を継続していく上での介護者が不安に感じる介護等

## (居宅要介護【要支援】者調査)

主な介護者が不安に感じる介護等では、「外出の付き添い、送迎等」が25.7%で最も多くなりました。次いで「その他の家事」(23.9%)、「食事の準備」(23.0%)、「認知症状への対応」(22.6%)、「夜間の排せつ」(21.2%)の順となっています。

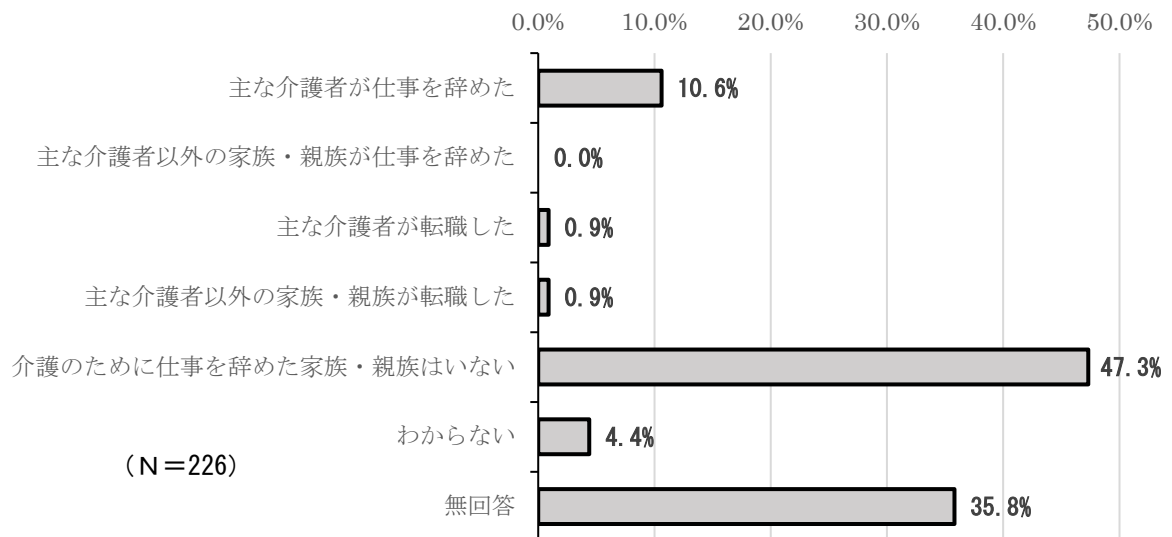
## ■現在の生活を継続する上での介護者が不安に感じる介護等(複数回答)



(9) 介護のための離職状況（居宅要介護【要支援】者調査）

介護のための離職状況では、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が47.3%で最も多くなっていますが、「主な介護者が仕事を辞めた」が10.6%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた」が0.0%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた」が0.0%となっています。

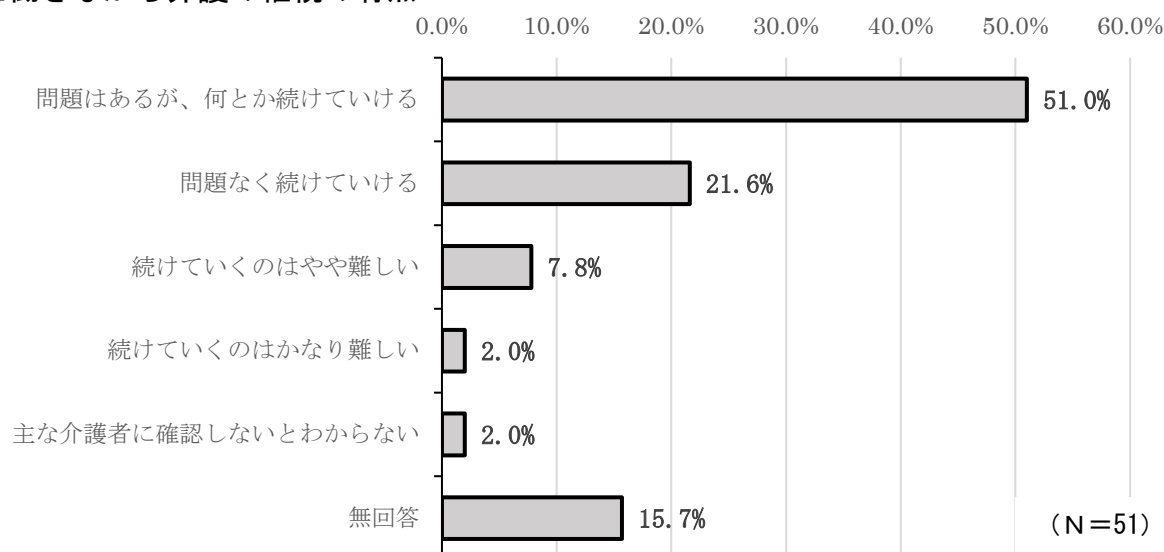
■介護のための離職状況



(10) 今後も働きながら介護を継続できるか（居宅要介護【要支援】者調査）

主な介護者が働きながら介護を継続できるかでは、「問題なく、続けていける」(21.6%)と「問題はあるが、何とか続けていける」(51.0%)を合計して72.6%が『続けていける』と回答しており、前回調査(25.2%)より47.4ポイントも上がっています。一方で、「続けていくのは、かなり難しい」(2.0%)と「続けていくのは、やや難しい」(7.8%)を合計して9.8%が『続けていくのは難しい』と回答しています。

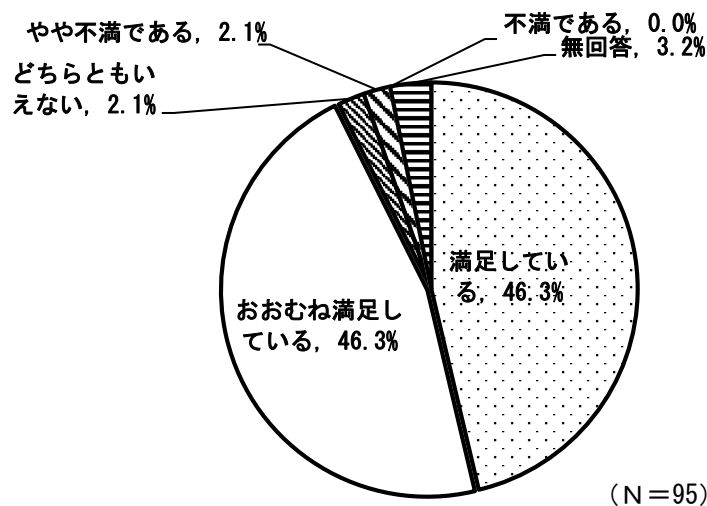
■働きながら介護の継続の有無



(11) 利用施設サービスに対する満足度（施設利用者調査）

施設サービスの満足度については、「満足している」(46.3%)と「おおむね満足している」(46.3%)を合計して92.6%が『満足している』と回答しています。

■施設サービスに対する満足度



(12) 日常生活の不安、悩み、心配事（居宅要介護【要支援】者調査）

日常生活の不安、悩み、心配事では、「地震や火災などの災害が起きたときが心配」が30.6%で最も多くなりました。次いで「認知症にならないか心配」(22.7%)、「歩けなくなるなど基礎体力の低下が心配」(22.1%)の順となっています。

■日常生活の不安、悩み、心配事

